

月に想う

今年の中秋の名月は十月一日であった。その木曜日の一夜を皆様はいかが過ごされたことであろうか。

月齢で数える旧暦八月十五日に月をめぐる風習は、目まぐるしい現代社会に一服の清涼感をもたらしてくれる。無論月見団子の甘さによるところも大きかろうが、それもまたよしである。

私たちが住む地球から最も身近に廻る天体である月は、太古から親しまれつゝ重要視されてきた。日々の暮らしにおいて、時と暦をつかさどる基準としての大陰暦は今なお有益である。さらに神話や昔話、和歌俳句を始めとする思想から文化芸術、科学分野に至る広範囲まで月は影響を与え続けている。地球と月は潮の満ち引きに見られるよ

うに密接な関係性があり、同じよううに私たち人間とも月は深い関わりを生じている。殊に仏教においては、その木曜日の一夜を皆様はいかが過ごされたことであろうか。

月は覺りの象徴とされ、その扱いは別格である。

平安時代の末に一世を風靡した興教大師覚鑑上人（西暦一〇九五～一一四三年）は真言宗中興の祖とされる。無論月見団子の甘さによるところも大きかろうが、それもまたよしである。

勢を誇る鳥羽上皇の篤い帰依を受けたと、上人がその修行を重ねた結果、北面の壁には阿彌陀の像がある。密教独自の修行ゆえにその詳細は略するが、上人はこの瞑想の達人と伝わる。和歌山の根来寺をお気に入りの道場とし、この寺の西側エリアしかも北面の壁に向か

う瞑想修行を常とされた。

覺りの象徴である満月を観じ、その満月に阿字（刃）を深く觀想し続けたという。上人がその修行に入るやいなや、瞑想対象の阿字からは金色の光明が放たれ、北面の壁にもその阿字が強く投影された。生じた光明は堂内をまばゆいばかりに照耀したと。そうした修

行を重ねた結果、北面の壁には阿彌陀の像がある。密教独自の修行ゆえにその詳細は略するが、上人はこの瞑想の達人と伝わる。和歌山の根来寺をお気に入りの道場とし、この寺の西側エリアしかも北面の壁に向かう瞑想である。密教独自の修行ゆえにその詳細は略するが、上人はこの瞑想の達人と伝わる。和歌山の根来寺をお気に入りの道場とし、この寺



令和2年11月発行
通巻 167号

発行所
瀧谷不動明王寺
〒584-0058
富田林市彼方1762
電話 0721-34-0028
振替 00930-5-17704
●発行人 荒谷 純光
●編集人 荒谷 融

開創一千二百年記念事業推進報告並ご奉請お願ひ
記念事業寄進者御待遇表/記念事業寄進者・各種奉納者御芳名
お正月のこなれ/修正会表(日から7日)/お護摩祈禱
お正月お護摩祈禱の時刻/本堂入堂制限のお願い/入堂制限のある日
新型コロナウイルスに対する安全対策
ご祈祷料について/郵送申込について
お正月の交通安全祈願のこなれ/新年護摩のこなれ
お年賀会場並びに新年まろご茶お接待中止のお知らせ
お正月お護摩祈禱のお願い/開運守護赤札守進呈
鐘楼堂修復ご奉請お願い/お寺のこはん
弘法大師(第二修行篇)
弘法大師(第一修行篇)
今后の当山行事予定

今後の当山行事予定

納め不動(12月28日)

御本尊御開扉大護摩供(本堂)

午前6時・10時・11時30分・午後1時30分・3時

修正会(1月1日～7日)

佛法興隆 歳旦開扉大護摩供 元日午前0時

開運招福 各願成就 御本尊開扉大護摩供 毎日午前7時

信徒成就 新年護摩(お預かり祈祷) 元日より7日まで

節分会 厄除け大祈願祭(2月2日)

初不動大法会(1月28日)

※行事予定は9月30日時点での予定です。今後、新型コロナウイルスの感染拡大等により変更する場合があります。
詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認ください。

日々のお護摩祈祷

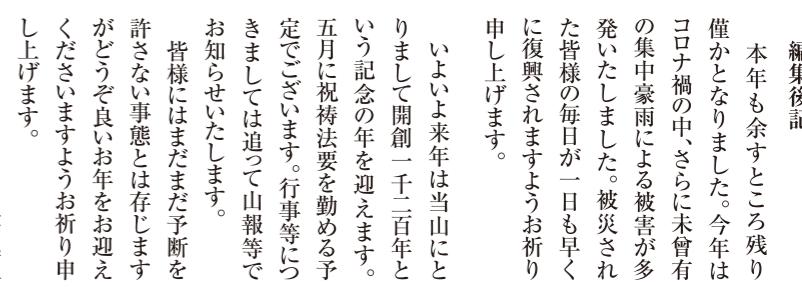
(平日) 午前7時・10時・11時30分
(土・日・祝) 午前7時・10時・11時30分・午後1時30分・3時
(毎月28日) 午前6時・10時・11時30分・午後1時30分・3時
お正月から節分まではお護摩の時刻が変わりますので事前にお問い合わせください。

交通安全祈願

午前9時より午後4時まで
毎時0分／30分の30分毎
(毎月28日および1月31日～2月4日はお車の安全祈願はございません)

仏具磨きの日のお知らせ

11月25日 12月25日 1月25日
この日は仏具磨きの日ですので、朝7時のお勤めだけです。



編集人

本年も余すところ残り僅かとなりました。今年はコロナ禍の中、さらに未曾有の集中豪雨による被害が多発いたしました。被災された皆様の毎日が一日も早くに復興されますようお祈り申し上げます。

いよいよ来年は当山とりまして開創一千二百年といふ記念の年を迎えます。五月に祝祷法要を勤める予定でございます。行事等につきましては追って山報等でお知らせいたします。

皆様にはまだ予断を許さない事態とは存じますがどうぞ良いお年をお迎えくださいます。ようお祈り申し上げます。

ご案内いたします。

二月以降のお護摩時刻は次号で

力を宜しくお願ひいたします。

二月以降のお護摩時刻は次号で

16時	15時	14時	13時30分	13時	11時30分	10時30分	10時	9時30分	7時	1時30分	0時	
○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	元日
○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	2・3日
	○		○	○	○		○		○			上記以外の日 (1月25日は除く)

尚、小さなお子様や介助の必要な方は、保護者・介助者お二人まで一緒におりいただけます。
また、状況に応じて内容を変更する場合がありますので事前にお問い合わせください。
電話 (〇七二二)三四一〇〇一八
ご参拝の皆様には、咳エチケットや手洗いなどの感染予防のほか、発熱などの体調をご自身で判断していただきご参詣くださいませ。ご協力をお願いいたします。



16時	15時	14時	13時30分	13時	11時30分	10時30分	10時	9時30分	7時	1時30分	0時	
○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	元日
○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	2・3日
	○		○	○	○		○		○			上記以外の日 (1月25日は除く)

お正月お護摩祈祷の時刻

本堂 入堂制限のお願い

新型コロナウイルスに対する安

全対策として本堂の入堂制限を実

施いたします。

お正月から節分にかけてのお

参りされる方が多い下記の日に

は、本堂への入堂はご祈祷申込の

お施主様だけに限らせていただき

ます。付き添いのお連れ様は寺務

棟または客殿棟内に待合所をご

用意いたしますので、ご祈祷の間

は分かれてお待ちいただくようお

願いいたします。

尚、小さなお子様や介助の必要

な方は、保護者・介助者お二人まで

一緒におりいただけます。

また、状況に応じて内容を変更

する場合がありますので事前にお

入堂制限のある日

● 1月

元日(金祝)・2日(土)・3日(日)

9日(土)・10日(日)

11日(月祝) 成人の日

16日(土)・17日(日)

23日(土)・24日(日)

28日(木) 初不動

30日(土)・31日(日)

2月

2日(火) 節分

新型コロナウイルスに対する安全対策

当山では厚生労働省が示す「新しい生活様式」を踏まえて、皆様が安全にお参りしていただけるよう左記の対策を実施しています。

- ・諸堂及び施設の換気
- ・本堂等参列席の間隔確保
- ・受付の飛沫対策
- ・アルコール消毒液の設置
- ・職員のマスク着用

ご参拝の皆様には、咳エチケットや手洗いなどの感染予防のほか、発熱があるなど体調のすぐれない場合は参詣をお控えくださいますようご協力を願いいたします。



◆ お正月のご案内 ◆

修正会(元日から七日)

滌谷山では、元日から一月七日までの一週間、修正会をお勤めいたします。修正会では、年頭にあたり世界平和、五穀豊穣、萬民富樂等を祈念し、併せてご参詣の皆様のお願い事を祈願いたします。

修正会期間中は、お護摩を普段より多くお勤めしております。時刻は左頁表によりご確認ください。またお車でお参りの方は、七頁に記載の移動見取り図をご確認ください。

皆様には、ぜひこの機会にご参拝いただき、ご祈祷をお受けいたりますようご案内いたします。

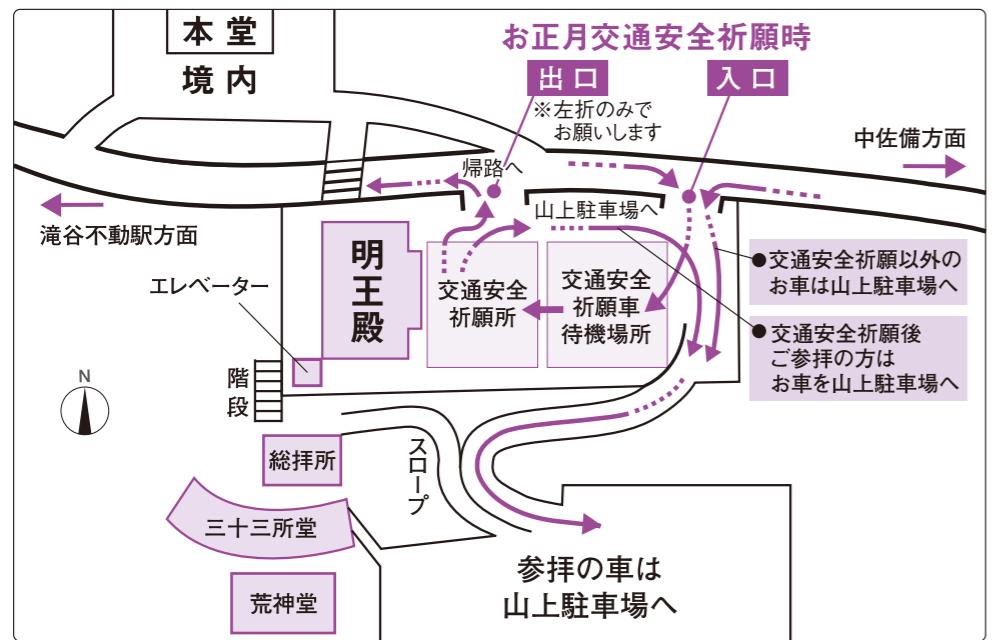
お護摩祈祷は弘法大師以来、密教に伝わる秘法で、炉の中にお不動さまをお招きし、そのご加護を願うものであります。

お不動さまの衆生済度のお心が大火焰となつて燃え上がり、私たちの願いが清められ、清淨な仏様のご誓願にかなうのであります。

お願い事の例

- | | |
|------|------|
| 家内安全 | 身体健全 |
| 厄除開運 | 災難消除 |
| 社運隆昌 | 商業繁榮 |
| 門繁榮 | 商売繁昌 |
| 運開招福 | 眼病平癒 |
| 試験合格 | 健眼加護 |
| 交通安全 | 當病平癒 |
| 息災延命 | 無病息災 |
| 心願成就 | 交通平癒 |
| 良縁成就 | 就職成就 |
| 安産如意 | 學業上達 |
| 報恩謝徳 | 息災延命 |





新年護摩のご案内

当山では修正会期間中(元日より七日)新年護摩と称しまして皆様の所願成就を祈念してお護摩をお勤めしております。無病息災・家内安全・開運招福など、來たる年の吉祥を願つてお申し込みくださいますようご案内申し上げます。

お申し込みになられましたご祈祷は護摩札にお願い事やお名前を淨書し、年内にご用意いたしますので十二月二十日を締切とさせていただきます。

尚、お札は八日以降に寺務所にてお受けとりください。また、郵送をご希望の方には十日以降に順次お送りいたします。



瀧谷山では、お寺でお護摩を勤める間に応じて、ご祈祷料を定めています。その期間は、当座(一日)、一週間、三週間、一ヶ月、三ヶ月、半年、一年とございます。また、お願いされる期間によって、それぞれお札がございます。

三ヶ月以上のお札は、お不動様に祈願を込めました大切な守札でございますので、大事にお祀りください。

いずれも祈願初日にお札をお渡しいたします。このお札は、お不動様に祈願を込めた大切なお札でございますので、大事にお祀りください。

ご祈祷料について

期間に応じて、ご祈祷料を定めています。その期間は、当座(一日)、一週間、三週間、一ヶ月、三ヶ月、半年、一年とございます。また、お願いされる期間によって、それぞれお札がございます。

本堂 護摩供	ご祈祷料
当座祈願	5千円
一週間祈願	7千円
三週間祈願	1万2千円
一ヶ月祈願	1万5千円
半年祈願	3万5千円
開扉大護摩供 一年祈願	10万円
開扉大護摩供 三ヶ月祈願	6万円
開扉大護摩供 一ヶ月祈願	510円
開扉大護摩供 同右	510円
一ヶ月祈願	510円
三ヶ月祈願	510円
一ヶ月祈願	210円
三ヶ月祈願	210円
一ヶ月祈願	210円
三ヶ月祈願	210円
一ヶ月祈願	26.2cm
三ヶ月祈願	30.3cm
一ヶ月祈願	36.3cm
三ヶ月祈願	42.5cm
一ヶ月祈願	47.9cm
三ヶ月祈願	510円
一ヶ月祈願	510円
三ヶ月祈願	510円
一ヶ月祈願	210円
三ヶ月祈願	210円
一ヶ月祈願	210円
三ヶ月祈願	210円
一ヶ月祈願	長さ
三ヶ月祈願	長さ

郵送申込について

当山ではお護摩の郵送申込の受付を行っております。ご希望の方は、左記の必要事項をご記入のうえ郵便、又はファックスでお申込みください。ご祈祷札が届きましたら、同封の払込取扱票で郵便局にてご送金ください。

● 必要事項

- 一、お名前(フリガナ)
- 二、住所
- 三、生まれ年
- 四、お願い事

- 五、ご祈祷料
- 六、郵送先住所
- 七、電話番号
- 八、お問い合わせ

※①お札郵送時の送料と、送金時の手数料は自身でご負担願います。
※②お送りの都合上、お下がりは御洗米に限らせていただきます。

※①お札郵送時の送料と、送金時の手数料は自身でご負担願います。
※②お送りの都合上、お下がりは御洗米に限らせていただきます。

聖酒 不動力 ご奉納のお願い

修正会期間中、本堂外陣正
面にて、皆様にご奉納いただいた
聖酒をお供えいたします。

命名による「不動力」^{ふどうりき}というお酒で、米と米麹のみで醸造された吟醸酒です。ご奉納いただいた不動力は、一本一本お名前を淨書してお不動様にお供えいたします。

ご奉納いただけます方は、直
接寺務所までお申し込みくだ
さい。もしくは新年護摩申込用
紙にてお申し込みいただくこと
も可能です。その際には、用紙
裏面の通信欄に奉納者をご
記入のうえお送りいただき、
同封の振込用紙にてお振込
ください。



お供えいただく不動力

お正月三ヶ日にご参拝の皆様に、令和三年の開運をお不動様に祈念した赤札守を進呈いたします。

ただし各日とも先着一千名様に限させていただきます。

元日は午前零時より、二日・三日は午前八時より進呈いたします。なるべく多くの方にご利益を授かっていただきますよう、ご参拝の方お一人につき一体のお守進呈とさせていただきます。

例年、お正月には新年を寿ぎお年賀会場におきまして、又境内での新年よろこぶ茶のお接待をしてまいりましたが、現下のコロナ禍の事態を受けまして来年のお正月のお接待は止む無く中止とさせていただきます。

この度は細やかではございますが、お年賀のおしるしを同封させ

開運守護赤札守

鐘樓堂修復ご奉讚お願い

当山の梵鐘は天明八年(西暦一七八八年)铸造で、現在の鐘楼は大正二年、当山に移築されたものです。以来、たくさんの人々の手によつて撞かれ、朝夕妙響を鳴り渡らせてまいりました。しかしながらこの度のコロナ禍を受け閉鎖して調査をいたしましたところ、屋根の老朽化がひどく梵鐘の反響により瓦が落下する可能性があるとの診断を受けました。



お寺のごはん

2 覚鑑

十二月十二日は興教大師覺

銅上人のご命日にあたります

かれて新義真言宗の祖となられたお方です。本山智積院に

おいては数日前から祖師の恩

れます。そしてご命日のご法事のあとに覚饅汁がふるまわ

当山におきましてもこの日は
れます。

かならずこのお汁をつくり、皆
で上人のお德を思びます。

このお汁は特別に変わったも

のではなく、具たくさんの味噌
汁ですが、赤みそをつかうこと

（除夜の鐘は例年同様お撞きいた
ざいます。

だけます)
また基壇も長年の間に損傷が
進んでおりますので、併せ修復す
ることになりました。

一、ご奉讃 一口 5千円
一、御芳名を山報にて
顕彰させていただきまよ

記



弘法大師

〈第一 修行篇〉

当山の開基と伝えられる弘法大師空海。その生涯を発心・修行・菩提・涅槃の四篇に分けて簡単にご紹介するコーナーです。第二回は修行篇です。

前回は弘法大師がいかにして仏道を志すに至つたかを中心を見てまいりました。幼少から神童の誉れ高く、青年期にはさまざまな学問を修め、将来を嘱望されていた弘法大師でしたが、都での華やかな成功などは、人間の儂い生涯のうちのほんの一瞬でしかないと考えます。そして、そんな儂い生涯を生まれては死に、また生まれ変わりと繰り返すこの状態、すなわち生死輪廻から脱すべきであると説く仏のおしえを実践することにしたのです。

さて、弘法大師は仏道を志し、修行しながら諸国を遍歴する中で、夢のお告げにより奈良の久米寺で

しえを授けるからすぐに灌頂壇に入りなさい」と告げたのです。

灌頂とは、密教における儀礼のことです、字のごとく「頭の頂きから水を灌ぐこと」を意味します。古代インドの王族たちが、王子の王位継承の儀式において四大海の水をその頭頂から注ぎかけていたことに由来するものです。密教では入門の儀式として、または、ある修行を終えたことの承認として灌頂を受けます。

晴れて惠果和尚のおしえにあづかることになった弘法大師。急ぎ必要な道具を用意し、六月には密教のあらゆるおしえを授かります。そして非常に大掛かりな曼荼羅の製作や、数十人の書き手による経典の書写の場面、儀式に用いる法具の铸造などを目の当たりにする機会も得ました。達筆だった弘法大師は自分でもいくつかの経典を書

『大日經』というお經に出会います。このことが弘法大師の運命を変えます。

『大日經』は「密教」の經典です。

密教とは「秘密仏教」という意味で、密教はそれまで日本にあつた

仏教に比べて、神秘性や象徴性、儀

礼的な要素を特徴としています。

儀礼によってかつてのお釈迦様が得たさとりを再現し、それを追体

験します。そうした儀礼の作法と

思想を体系的に説いたお經が『大

日經』です。

弘法大師は『大日經』と出会い、私が求めていたものはこれであつた

か、と感動したと伝えられます。そ

して密教の奥深いおしえをさらに

追究したいと思いました。

ところが、当時、密教は日本に伝

わつてまだ日が浅く、国内では密教

を学ぶ環境が整つていませんでした

た。そのため、弘法大師は当時最先

端の国であつた唐（現在の中国）に

留学することを決意します。当

時、日本は遣唐使という使節を唐

弘法大師に託すと、この年の十二

月、惠果和尚は亡くなります。

恵果和尚は密教のおしえのほか、

お軸、代々受け継がれてきた法具な

和尚は亡くなる間際にも、これらの

事物を持って、無事本国へ帰り、ど

うか広く密教を伝えなさいと弘法

大師を激励しました。

また、亡くなつた当夜、弘法大師

の前にあたかもその姿を現して、互に密教を弘めようと堅く約束

し、「きっと日本に生まれ変わつて、そなたの弟子となりましょ」と言

い残したとされます。

翌大同元年（西暦八〇六年）の春、

へ派遣しており、それに伴い留学生

のためには國の許可を得なければなりません。

唐へ渡ることとなつたのです。

このように、中国への使節団について

て行き、技術や学問を学びに渡つた人々をさす語として、今なお残るこの

要でした。

さて、留学生となるためには国

による正式な出家の手続きが必要でした。

弘法大師は留学生として選ばれ、

この派遣してから、長安に入るまで実家による正規の出家の手続きが必要でした。

弘法大師は留学生として選ばれ、これができたと記しています。日本を発つてから、長安に入るまで実際に半期近く月日を要しました。

明くる年の延暦二十四年（西暦八〇五年）二月より、弘法大師は長安の西明寺というお寺に住まうことになりました。

弘法大師は西明寺の恵果和尚に出会いました。

恵果和尚は、不空三藏という非常によく知り尽くし、密教経典をよく知り尽くし、密教にも精通した人物でした。また三

代にわたり皇帝からの篤い帰依を受けており、皇帝から師と仰がれ、人々から尊ばれ、この時代の唐の佛教界を治める人であったといえます。

この時、弘法大師は数名の仲間た

りと青龍寺を訪ねましたが、恵果和尚は空海を見るや「私は既にそな

れています。

弘法大師は長安を発ち、八月には日本に戻ります。

もともと入唐の時点では、唐に二十年間行つたきりで

唐使・藤原葛野麻呂の船に同乗し、

ます。

弘法大師は長安を出て、唐使・藤原葛野麻呂の船に同乗し、唐をを目指します。

入唐時に關する記録では六月に唐を目標します。

大幅に破つて帰国しています。帰国した年、弘法大師は三十三歳。結果として、まだ若いうちに日本へ戻つことにより、その後精力的におしえを弘めることができたといえます。

細かいことですが真言宗では「恵

果和尚」と書いた時、「和尚」の部分

を「かしょ」と読みます。仏教全体

でみると、この「和尚」という語には「わじょう」「かしょ」「おしょ」と三通りの読みが当てられています。

漢字に音読み・訓読みがあることは多くの人の知るところですが、この音読みの中でさらに細かく音

が分かれているのです。これらはそれぞれ吳音・漢音・唐音であり、み日本にもたらされた年代も異なるのです。お経や、仏教語の読み方は、こうして古くからの複雑な読み方が聞これないものばかりなの

み方が理由の一つです。

